

- ・ 具体的な、スライド取り込み、PowerPoint・Keynote等のプレゼンテーション作製デモ
- ・ 著作権等の取り扱いについて などの全教員の共通理解を得る努力をすすめている。

## 歯科衛生士養成課程におけるホワイトニング実体験教育

金子 潤 (歯科衛生士学科)

### 1. 補助事業の取組状況

近年の歯科医療現場では歯科漂白治療、すなわち歯のホワイトニングに対する社会的ニーズがますます増加する傾向にある。ホワイトニングは、歯科衛生士が専門知識を生かして主体性を持って取り組める分野と考えられる。そこで本補助事業では歯科衛生士養成課程にホワイトニング実体験教育を導入することによって、より専門性の高い知識と技術を兼ね備えた歯科衛生士を養成する試みを行なう。

歯科衛生士学科臨床実習において座学による歯科漂白ゼミを行った後、各学生が一定期間ホームホワイトニングを行なう。漂白前後の測色および写真撮影にて歯の色彩変化を記録し、ホワイトニングの効果を体験させる。また歯科漂白の知識および施術のテクニック、カスタムトレー作製の方法などを習得させる。

平成17年度は学生相互のホワイトニング実体験教育が行なえる環境を整えることを目的に、カスタムトレー作製用機材の準備、色彩記録・評価用機材の設置、試用を行なった。また、平成18年1月より12月までの予定で120名の学生を7班に分けて、臨床実習における歯科漂白ゼミを開始した。ゼミを受講した学生の一部はホワイトニング実習を開始した。

### 2. 補助事業の成果

平成17年度における本補助事業による成果は以下のとおりである。

- 1) 口腔内撮影用デジタルカメラの導入により、ホワイトニングによる歯の色彩変化を画像データとして保存できる環境が整備された。
- 2) 歯科用色彩計の設置により、ホワイトニング効果の評価をCIELAB表色系で数値化して行なえるようになり、より客観的に正確な評価を行なうことが可能となった。
- 3) カスタムトレー作製用機材の整備によって、学生が自らトレーを作製することができるようになり、作製過程の理解と技術の習得が可能となった。
- 4) 最新のトピックスを含めた少人数制による歯科漂白ゼミの実施により、学生が歯科漂白治療に関する専

門的知識を身につける体制が整った。

次年度以降では、ホワイトニング実習を経験した学生にアンケート調査を行ない、本教育法の効果と有用性を検証し、教育方法の改善を行なっていく。また、実習で使用した各種漂白剤の漂白効果と副作用発現の状況を検討し、より効果的で安全性の高い薬剤を歯科漂白教育に導入していく予定である。

## 新しく開発した手指感覚訓練法の カリキュラムへの導入

江川 広子 (歯科衛生士学科)

### 1. 補助事業の取組状況

歯科衛生士の日常業務であるスケーリング・ルートプレーニング (以下、S & Rと略す) は、スケーラなどを使用し、歯周組織の直視できない部分を手探りの状態で行われていることが多い。従って、ポケット内の歯石などの存在を知るためには指先と感覚と器用さが重要である。

現在の学生は、この感覚や器用さは年々低下していることが知られている。S & R技術をより確実にするためには繊細な感覚を養う必要がある。

著者らは、前報 (Training of fingertip tactile sensation for scaling and root planing, Dental Health, Vol.43 No6 8-10, 2004) にサンドペーパーの粗さの識別テストを行い、感覚向上の可能性について報告した。

そこで本研究は、上記識別テストの感覚トレーニング効果を確認するために顎模型に人工歯石を付着し、所定の時間を定めスケーリング操作を行った。また、学生の性格とS & Rの効果についての相関性を調べるために、YG性格検査一般用 (矢田部ギルフォード性格検査) を実施した。

### 2. 補助事業の成果

- 1) 被験者：本試験の内容に同意を得た、本学歯科衛生士学科2学年42名を選び実験群と対象群の2群に分けた。さらにこれらは、1年次の成績から上・中・下位の3群に分類された。
- 2) 試験材料：(1)実習用顎模型の下顎前歯 (3番から3番) の歯肉縁下部に人工歯石を付着して使用した。(2)サンドペーパー識別テストとして、#120~1500の9種類のサンドペーパーそれぞれ2枚の組み合わせを作製した。
- 3) 性格テスト：被験者全員にYG性格検査を行った。
- 4) 試験方法：スケーリング方法は下顎前歯部を所定の時間内に、キュレットスケーラ#5・6を使用し、

歯石の取れ具合を探針 # 9 で点検させた。なお、実験群にはサンドペーパー識別テストを行った。

- 5) 評価方法：顎模型より歯肉を外し、歯石の残存状態を5段階に分け、それぞれ5点から1点のスコア付けを行い評価した。
- 6) 歯石の残存状態の結果から、学業成績とYG性格検査の相関を調べた。

以上の結果、識別能テストを行った群は、行わなかった群より歯石除去効果において学業成績、性格との間により高い相関性が認められた。したがって、サンドペーパー識別訓練は手指感覚訓練法として、実習教育カリキュラムに導入することによって、より確実なS & Rの技術の習得が期待される。

## 歯科技工技術向上のための 手指訓練法の開発

丸山 満 (歯科技工士学科)

### 1. 補助事業の取組状況

指先の器用さは歯科技工士にとって生命である。指先の技術は感覚、特に触覚、視覚に深く関係する。この技術を向上するためには、繊細な感覚が必要である。しかし、従来の技術教育は主に技工物の反復製作によって行われており、基本となる感覚のトレーニングは殆どなされていない。そこで、本研究では、歯科技工技術の向上のために独自の感覚訓練方法を開発し、実習教育に寄与することを目的として企画した。

昨年度までは手腕作業検査1, 2および指先器用検査について、器用さのベースラインの特定し報告した。

今年度は、さらに性格 (YG性格検査) および器用さ、感覚検査と学業成績との相関について検討した。

〈実験項目〉

- ・ Y G 性格検査
- ・ 指先の識別能検査
- ・ 器用さ検査

### 2. 補助事業の成果

学業成績 (実技) の分解検査には有意差が認められた。Y G 性格検査は指先感覚の識別能、組み合わせ検査、手腕検査1に有意差が認められた。しかし、学業成績 (学科) ではY G 性格検査および、指先感覚の識別能、各種器用さ検査に有意な差はなかった。また、学業成績 (学科) と学業成績 (実習) は各種器用さ検査法との関係を検討した結果、分解検査、組み合わせ検査、手腕検査2に相関が認められた。その検査内容は比較的難易度が高く、複雑な手指の動きや指頭の感覚が求められる歯科技工技術の「感覚のトレーニング」に適していると考えられる内容であった。学業成績 (実習) と性格特性において各種器用さ検査法と感覚検査に差が認められたことは非常に興味のある結果であった。

学業成績は、各種の器用さ検査法の分解検査、組み合わせ検査、手腕検査2を「感覚のトレーニング」とする際の指標になると推察できる。また、性格特性の違いで粗さの識別能に差があったことから、性格特性別のトレーニングが有効であることが示唆された。学業成績と性格特性を明らかにすることは、効果的な「感覚のトレーニング」に繋がると考えられた。